

【給食協会賞】給食がくれる魔法

安城北部小学校

増濱 帆高

給食には魔法のような力があります。ぼくは今六年生ですが、勉強がきらいで学校へ行きたくない日がたくさんありました。けれど、給食のおかげで病気が以外は学校へ行くことができています。学校の給食はとてもおいしく、学校生活の中でぼくにとって一番の楽しみです。

ぼくの三大好物は、「いかフライのレモン煮」、「ビビンバ」、「米粉パン」です。ぼくはいかのどろっとした食感が苦手です。けれど、「いかフライのレモン煮」ならば食べることができません。初めて、いかがおいしいと思えました。ビビンバは、ぼくの学校の人気ランキング第一位です。米粉パンはもちっとした食感がたまらなく大好きです。給食に三大好物がある日は、必ずおかわりをしています。でも、人気のためたくさんのおかわりをすることはできません。おかわり用にもう少し作る量を増やしてもらえるとありがたいです。

ぼくは四年生の夏休みに「ワクワク調理場探検」に参加しました。そこで、調理員さんの一日の仕事を学び、初めて知ることがたくさんありました。例えば、野菜などは洗いねいに三回洗っていました。また、長いスパテラを使い大きな釜の底から混ぜる作業は、とても大変そうでした。それに服そうや、衛生面にも気をつけてくれていることを知りました。ぼくたちが安全安心な給食を食べることができるのは、調理員さんの洗いねいな仕事のおかげであ

ることがわかったのです。

給食のメニューは、栄養のバランスを考え、栄養士さんたちが作ってくれています。だから、ぼくは栄養がつまっている給食を残さないように心がけています。ぼくの住んでいる安城市や、近りんの市は、野菜作りがさかんです。そういった野菜をどんどん給食に取り入れることで、地産地消につながるし、ぼくたちは給食を身近に感じることができると思います。そして安城市産のものを使うことで、もっと安城市の魅力に気づくのではないのでしょうか。

ぼくは、給食作りに関わっている人たちへ感謝の気持ちでいっぱいです。この作文を通して、ぼくが気持ち伝わりやすいと思います。ぼくには、来年小学一年生になる妹がいます。妹にも給食のおいしさを教えようと思っています。ただ、一つだけ残念なことがあります。それは、長期休みは給食が食べられないことです。家だと手ぬきのお昼ごはんが出てきます。それでおいしい給食のありがたみがよくわかります。給食最高！